

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 雇用統計は改善期待

2019年12月2日

10月末の米FOMCで当面の金利据え置きが示唆され、今後については経済データを注視する姿勢が示されたことで、米国の重要指標に対する注目度が高まっています。

そうした中、今週は米国の重要経済指標がいくつか予定されています。中でも注目は2日のISM製造業景気指数(11月)と6日の米雇用統計(11月)です。

特に米雇用統計は、FRBの二大責務である「雇用の最大化」と「物価の安定」の片側に直結する指標として、金融政策動向への影響力が相当高いものとなります。

前回10月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+12.8万人に。水準的にはやや低い数字ではありますが、事前見通しが+8.5万人とかなり厳しいものだっただけに、予想ほどの減速を見せずという結果に。また、8月分と9月分の数字が併せて9.5万人の上方修正となっており、そこからの比較で+12.8万人は決して弱くないという認識もありました。

また、前回は製造業の雇用者数が-3.6万人と2009年以降で最も大きな減少を見せましたが、こちらは自動車大手ゼネラル・モーターズ(GM)のストライキが影響したもので(自動車部門だけで4.16万人の減少となっています)。その後のストライキ終結で反動が出ることを考えると、米国の雇用市場はそれほど鈍化していないという期待感につながりました。

失業率は9月の3.5%から3.6%に悪化しましたが、水準的には十分に低いこと、労働参加率が63.3%と2013年以来の高水準まで上昇していることを考えると、失業率悪化も仕方のないところ(労働参加率上昇は失業率の悪化要因です)と見られます。

雇用者数増減の内訳をみてみましょう。
雇用の先行指標とされるテンポラリーヘルプサービスが3カ月ぶりにマイナスとなりました。本来ならばこちらは懸念材料ですが、国勢調査向け雇用が減少したことが背景にあると見られ、特に問題視されませんでした。

雇用増が目立ったのはヘルスケアサービスと、レジャー&ホスピタリティ。ヘルスケアが多いのはいつものこと(リーマンショック後の時ですら増加が見られる場面がありました)。ですが、レジャー&ホスピタリティの+6.1万人はやや意外感。生活必需品ではなく、ある程度余裕のある時に需要が増加しやすく、雇用も増えやすい項目だけに、米国の雇用市場は堅調で個人消費も活発という期待感につながるものとなっています。

そうした状況を受けて、今回の予想ですが、非農業部門雇用者数が+18.0万人。予想通りだとするとまずまず悪く無い数字です。前回3.6万人の減少となった製造業部門が4.0万人の増加と一気に回復の見込みとなっており、前回よりも高い雇用の伸びにつながりそうです。失業率は前回と同じ3.6%が見込まれています。

予想通りもしくはそれ以上の結果が出てくると、12月のFOMCはもちろん、来年前半までのFOMCでの利下げ期待を後退させ、ドル買いの材料として作用しそうです。

続いて、2日のISM製造業景気指数です。

9月分が約10年ぶりの低水準である47.8となった同指標。前回10月は48.3とやや改善も、予想の48.9には届かず。また、経済活動の拡大縮小(景気・不景気)の境とされる50についても、3カ月連続で下回りました。

内訳のうち、注目度の高い新規受注と雇用をみると、ともに9月からは改善したものの、こちらも節目の50を下回ったままという状況です。もっとも、新規受注は49.1まで戻ってきており、今回の50超えが期待されるところで、雇用は47.7と9月からは改善したとはいえまだ水準は低め。今回は48.3が予想値となっており、4カ月連続での50割れとなりそうです。

こうした状況を受けたISM製造業景気指数の予想値は49.2。前回から改善も4カ月連続での50割れが見込まれています。ただ、10月の雇用統計が予想ほど弱くなく、小売売上高などその他重要な指標総じてまずまずな結果が出たこと。上述の雇用統計や、13日発表の小売売上高の11月の予想が10月分よりも強めとなっていることなどから、ISM製造業も予想を超えてくる可能性が十分にありそうです。

予想を超えて全体の数字が50を回復、内訳のうち注目度が高い雇用、新規受注といった数字も強めに出てくると、ドル買いに安心感が広がる可能性があります。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。